

地図を示しながら活動を報告するアムダのスタッフ（岡山市櫛津の本部で）

# ジャワ沖地震

# AMDA 539 人 診察

インドネシアのジャワ島

南西沖地震で緊急医療支援活動を行ったNGO「AMDA（アムダ）」が、岡山市櫛津の本部で記者会見し、計539人に診察、予防接種などをした活動を報告した。

アムダは、地震が発生した翌7月18日から医師6人、看護師3人、調整員3人

の計12人を順次現地に派遣し、インドネシア支部の医師ら7人とともに、今月1日まで滞在。ジャカルタ東部の被災地3か所に簡易な診療所を設けて活動した。

アムダのメンバーが到着した時、住民は2004年12月のスマトラ島沖地震の



## \* 3か所に簡易診療所／はしか、破傷風の予防接種 \*

教訓から、既に約3万人が高台に避難。津波を恐れて傾斜40度ほどの急斜面に上り登ったり、津波で流される家具とぶつかったりしたため、擦り傷や切り傷を負った住民が多かった。

また、アムダは、インドネシア政府が被災地に運んで来た、はしかと破傷風の予防接種、ビタミンA投与のための物資を受け取り、住民への投与を担った。

参加した看護師渡辺美英さん(47)は「現地スタッフのおかげで住民の訴えが十分伝わった。現地スタッフとのコミュニケーションが大切だと実感した」と話し、「若い女性患者が少なかったのは、イスラム教の教えで肌を見せることを避けたためかもしれない」と、今後の課題も述べた。

菅波茂代表は「アムダが今回活動した場所に他の国際援助団体はおらず、国際社会が犠牲者1000人以上の被災に『援助疲れ』を起しているのではと感じた。保健センターの復興など保健医療を支援し続けた」と話した。